

## (2) ① 小学校国語・中学校国語

### 育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

国語科の目標では、国語科において育成をめざす資質・能力を、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示しています。また、言語は、言語形式とそれによって表される言語内容とを併せもっていることを踏まえ、今回の改訂において示された「国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力」は、内容や事柄を正確に理解したり適切に表現したりする資質・能力とともに、そのために必要となる国語の使い方を正確に理解したり国語を適切に使ったりする資質・能力を含んだものであることに留意する必要があります。

#### 【小学校国語 中学校国語 の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

<div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">小学校</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">中学校</div>	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<p>日常生活* 4に必要な国語について、その性質を理解し適切に使うことができるようにする。</p>	<p>日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p>	<p>言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を<u>養い</u>、<u>国語の大切さを自覚し</u>、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<p>社会生活に必要な国語について、その性質を理解し適切に使うことができるようにする。</p>	<p>社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p>	<p>言葉がもつ<u>価値</u>を認識するとともに、言語感覚を<u>豊かにし</u>、<u>我が国の言語文化に関わり</u>、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>

(\* 4 小・中学校で表現が異なる箇所には、下線を付けています。他の教科・領域等も同様)

#### ★目標の改善

今回の改訂により「言語活動を通して」資質・能力を育成するということが目標に明示されました。言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科では、資質・能力が働く一連の学習過程をスパイラル的に繰り返すとともに、一つひとつの学習活動において資質・能力の育成に応じた言語活動を充実することがより一層求められます。また、平成 20 年告示の学習指導要領の目標では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力」の順で示されていましたが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な物事、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回は「正確に理解」、「適切に表現」という順に示されています。

## 具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

### ★内容の改善・充実

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の3領域および〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていた内容が、以下のように〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの柱で構成し直されています。なお、「学びに向かう力、人間性等」については、教科及び学年等の目標においてまとめて示され、指導事項のまとめりごとには示されていません。

#### ■構成の改善

【平成 20 年版】
A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

【平成 29 年版】
〔知識及び技能〕
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕
A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

#### ■学習内容の改善・充実

<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙指導の重点化・系統化</li> <li>・情報の扱い方に関する事項の新設</li> <li>・学習過程の明確化、「考えの形成」の重視</li> <li>・我が国の言語文化に関する指導の充実</li> <li>・漢字指導の改善・充実（※小学校のみ）</li> <li>・学習の系統性の重視</li> <li>・授業改善のための言語活動の整理・充実</li> <li>・読書指導の改善・充実</li> </ul>
--

👉 解説 小学校国語編 p.16～39 中学校国語編 p.17～39

## 主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としています。

このため、国語科における主体的・対話的で深い学びを実現するためには「言葉による見方・考え方」（5・6ページ参照）を働かせることが大切です。言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることですが、これは、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示しています。

《学習過程のイメージ》 ※指導事項は、必ずしも順番に指導する必要はありません。



👉 解説 小学校国語編 p.153～154 中学校国語編 p.131～132